

交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

外法岩（げほう）と 徳雲岩（とくうん）



外法岩
（交野山 岩倉開元寺遺跡付近）



外法とは

仏教においては、仏教以外の宗教や思想をすべて外道、外教（げきよう）あるいは外法（げほう）などと呼んでいる。

（福祿寿（ふくろくじゅ）の頭が**外法頭**であるところから）七福神の一人、福祿寿の異称。



古来からの山岳修験道などを、寺院仏教に対して外道の法と称し、特に、真言密教と結びついた呪法に関連して、天狗や稲荷の狐などを外法様と称した。

もう一つの説。



^{えぼし}
烏帽子とは 昔、公家や武士、神官がかぶった帽子の一種で、外形が烏帽子に似ているのでこの名前でもいいのではと思う今日この頃。
これからは、外法岩・烏帽子岩とも意味を理解しながら呼んでみたい。



皆さんは、外法岩か?それとも烏帽子岩か?
名前の変更手続きには裁判所に届けなければ(笑)
外法岩へは交野カントリー側から交野山山頂を目指し此附近岩倉開元寺遺跡の石碑を左に行けば。

とくういいわ
徳雲岩



徳雲岩(三段重ねの大岩)

獅子窟寺の三十三観音の道を突き当たり、八畳(丈)
左に歩いたところで振り返る「ふり返る心が」大切。

* HP「第166回国宝薬師如来と三十三観音めぐり」
を参照しながら歩いてみてください。

*(獅子窟寺三十三観音略図)

徳とは平たくいうと「人間の良い行い」を指す言葉
です。

つまり徳を積むとは、善行を重ねることを表しま
す。

徳は人間の道徳性や社会性が発揮された結果であ
り、それを重ねることで他者からの尊敬や感謝を集
めることができます。

人に知られずとも、良い行いを積み重ねていくこと
が「徳を積む」ことにつながっていくのです。

- 徳を積むことは、人知れず良い行いを重ねること
- 徳を積むことは、「陰徳あれば陽徳あり」に通じ
る行為。
- 徳を積むためには、見返りを求めず行動すること
が大切
- 徳を積むことが未来の幸せ貯金となる



素晴らしい景色

でもロッククライミングのトレーニングが徳雲岩
に、ピッケルが打ち込んであった。

空しく思えても、無駄だと思えても、それが
心からのものならば実行すればいい。

黙々と実行あるのみ。 よもやまひとり言より

次回は5/17